

# 新安川における内水対策の方向性について（案）

## 1. 浸水被害状況について

平成22年7月梅雨前線豪雨により，新安川流域下流域において7月14日長束駅周辺及び新安川左岸側周辺部等において，広範囲な浸水被害が発生した。

（浸水家屋数：床上浸水11棟，床下浸水527棟 広島市災害対策本部調べ）

## 2. 浸水原因について

平成22年7月10日～14日にかけて西日本に停滞した梅雨前線の影響により，太田川本川水位が上昇し14日12時に最高水位TP+5.47m（祇園大橋水位）となった。

本川水位の上昇に伴い，新安川河口部の樋門を閉鎖しポンプ排水（5m<sup>3</sup>/s）を行ったが，14日9時までの時間雨量が31mmに達したことから，ポンプの排水能力以上の流出が発生し内水被害が生じたものである。

（祇園大橋降雨：14日8時まで200mm超，流出量ピーク14日9時29m<sup>3</sup>/s）

## 3. 計画規模について

過去の内水実績及び計画対象降雨をカバーするもの

## 4. 内水対策の方向性（ポンプ増強規模）について

現況：6.48m<sup>3</sup>/s（新安川排水ポンプ5.0m<sup>3</sup>/sほか）

暫定目標：床上浸水の解消 約6.5m<sup>3</sup>/s増強

将来目標：床下浸水の解消 約9.0m<sup>3</sup>/s増強（床上解消+ポンプ規模約2.5m<sup>3</sup>/s相当）

表 整備内容（案）

	項目	具体的内容	実施期間
ハード 対策	排水能力の増強	約6.5m <sup>3</sup> /sと同等以上の排水機能の増強	中長期
	流域対策施設の整備	公共の公園・学校グラウンド等を対象とした流域貯留施設等の整備	長期
	流入抑制対策	流域外からの流入カット	短期
	溢水防止対策	新安川左岸側嵩上げ	短期
ソフト 対策	河川情報の提供	防災情報の提供（浸水被害に関する情報の地域住民への周知，XハントMPレーダ導入による詳細な降雨量分布等の監視等）	短期
		ポンプ稼働状況を知らせるサイレン・赤色灯等の設置	短期
	地域との連携	より迅速な情報伝達が可能となる連絡体制づくり 浸水被害（内水面氾濫）マニュアル作成	短期
	その他 当面の対策	国所有排水ポンプ車の早期要請体制確保	短期